

三木城跡の案内

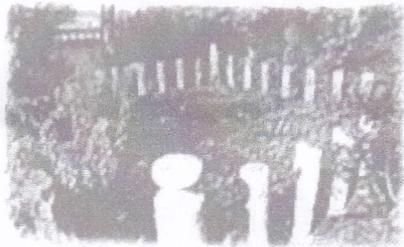
この城は別所氏5代。豊臣氏10代。徳川期3代。
今の城あとは徳川期のものだ。



国史跡 三木城本丸跡・二の丸跡 map



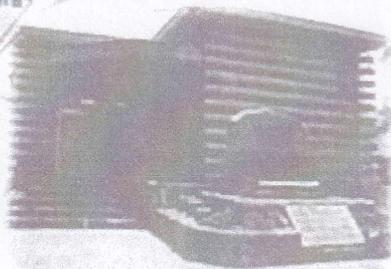
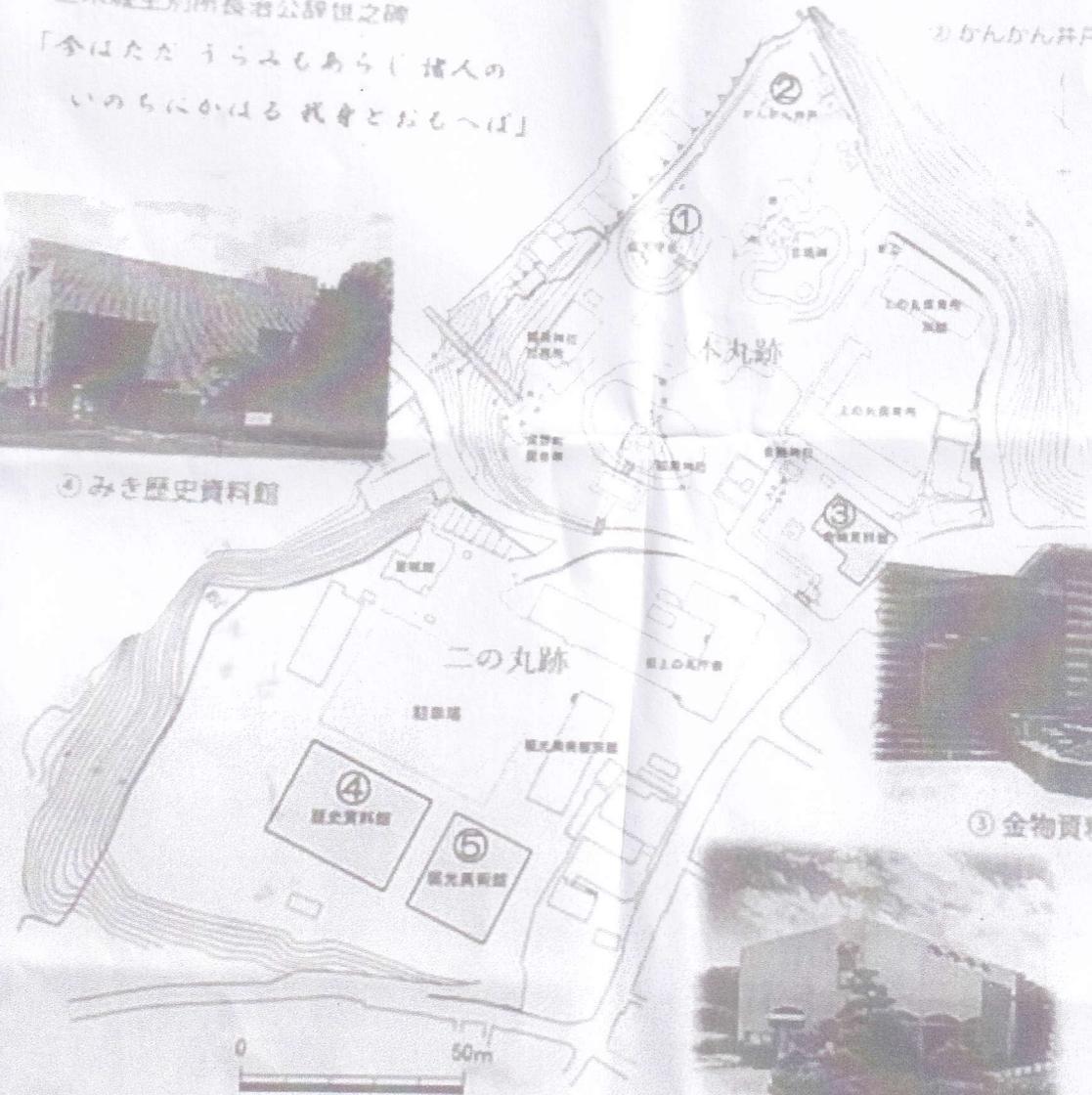
三木城主別所長治公諱世之碑
 「今はただうらみもあらし諸人の
 いのらにかはる我身とおもへば」



わかんかん井戸



④ みき歴史資料館



③ 金物資料館



⑤ 坦光美術館

三木城とは、上の丸台地に築かれた丘城で、本丸・二の丸を中心部とし、新城・鷹尾山城・宮ノ上要害によって構成されています。15世紀後半に別所則治によって築かれたと考えられています。別所氏と織田氏の天正6年(1578)から天正8年にかけての三木合戦の舞台となり、元和元年(1615)の関一城令によって廃城となりました。本丸跡は、明治30年(1897)に上の丸公園として整備されました。

2024年5月22日

学友会清掃ハイキング 添付資料

三木市文化会館駐車場 当駐車場は三木文化会館（昭和61年）、三木市役所（平成5年）の建築時、山（三木城内鷹尾山城）を造成して造られた。市役所の下駐車場は、駐車場になる前は三木高校のグラウンド、その後市民グラウンド。

別所氏について 平安時代末期（1177年）に別所頼清が東播磨郷の地頭職となり三木の地に屋形を建て移り住む。源平合戦では平家に与力するが、源氏に謝罪し御家人となり、地頭職を安堵される。頼清—清次—清光—頼光—範光と続き、範光に後継ぎが無く、宗家の赤松円心則村の弟（敦光）を養子に迎える。赤松氏の援助により三木の宿原地区に霧ヶ峰城が築かれる。その後、敦光—敦則—持則—則康—祐則と続くが、嘉吉の乱により赤松氏・別所氏は追放され、霧ヶ峰城は廃される。その後動乱（応仁の乱）が続くが赤松氏、別所氏の残党が戦功により家運を再興し赤松氏は西播磨8郡、別所氏は東播磨8郡24万石の領地を持ち、三木上の丸に釜山城を築いた。この中興の祖は別所則治で1492年のことである。その8郡とは、明石、三木、加東、加西、加古、多可、印南、神東郡であり、非常に広大な土地である。（福本錦嶺氏 信憑性？）

則治—某（就治）—村治—安治—長治

1568年安治は三好三人衆より織田信長に鞍替え、1570年小三郎（長治）上洛し織田信長に会う。同年、信長から一字をもらい長治を名乗り、主従関係を結ぶ。1578年3月信長を見限り、秀吉、三木城に押し寄せる。1580年1月17日長治切腹、三木城落城

別所長治の首塚（雲龍寺） 寺伝によると958年に開創。長く廃絶していたが赤松円心が復興し、別所則治が規模を一新し再度開山したとつたわる。曹洞宗。長治が自刃に際し当寺の住職に後事を託したと云われており、遺品として金天目茶碗が伝わる。長治自刃後、首実検のため安土に送られた首を当寺の住職がもらい受け三木に持ち帰り、菩提したと伝わる。また明治にカンカン井戸を調査した際、別所公の紋がある鎧（あぶみ）が発見され当寺に保管されている。長治の命日である1月17日は干殺しの際に食した藁に見立てたうどんを食べ供養しています。

余談ですが、別所氏の菩提寺は法界寺です。ここに長治の身体を埋められたと伝わる。

照子夫人の碑は昭和48年に追加された。

三木城二の丸跡の発掘調査 この地には昭和2年に三木町立実科高等女学校新築校舎ができ、昭和3年に高等女学校に組織変更され、昭和5年に県立に移管され兵庫県立三木高等女学校となった。戦時中は飛行機の部品工場となり、また学童児童の疎開を受け入れ、一帯は芋畑になったと云われています。昭和22年に新制高校となって男女学の兵庫県立三木高等学校となった。グラウンドが鷹野（市役所北駐車場）で移動が大変であったと聞いてます。昭和41年に加佐に移転。空いた校舎に小野工業高等学校三木分校が開校。定時制高校でここに金属加工科があった。この高校が三木東高校の母体となった。昭和55年に三木分校は廃校となりました。昭和52年に空いた校舎を利用して三木市役所上ノ丸庁舎が設けられ（教育・保険）、平成5年まで使用されたが、老朽化により令和2年に校舎はすべて解体され、現在、堀光美術館、三木歴史資料館が建つ。校舎解体後の令和4年に発掘調査が実施された。昭和55、56年の発掘調査では食糧を貯蔵した

備前焼大甕群、焼けた瓦、空堀等が見つまっている。

都筑十平社 二の丸跡の崖っぷちに密かに建っている。館林藩の藩士で都築十平（3代続く）。都築 盈静（十平）を祀られた祠と思われる。生まれは高木村で、三木陣屋に50年以上在職し、農地の基盤整理、殖産興業に努め町民に慕われたと云う。二位谷池を築造したとも云われているが、疑問が残る。小生、子供の時、町の古老からこの祠は町を水害・土砂崩れから守っていると聞いた。滑原町の4、5組がお世話している。18世後半から19世紀半ばの話です。

（本丸跡、上ノ丸公園）

金物資料館：金物神社 古くから鍛冶屋により上ノ丸稻荷神社が崇拜されてきたが、昭和10年に金物屋により金物だけの神社を作る気運が高まり設けられた。昭和39年の台風により倒壊。この時滑原町の屋台の全損となった。昭和49年に今の社殿になった。毎年12月1日にふいご祭りが実施される。

金物資料館は昭和51年に竣工される。詳しくは館長より説明？

別所長治顕彰碑

別所長治 辞世の句 今はただ うらみもあらし 諸人の いのちにかわる 我身とおもへば
照子夫人 もろともに消え果つるこそ 嬉しけれ おくれ先立つ ならいなる世を
享年 長治23才 照子21才 子供3才

*名は照子とされるが、実際は出自・名とも不明（主要文献に記載がない。波多野秀治（丹波の武将）の娘とか備前の浦上宗景の娘とか云われている。また、長治の辞世の句にはいくつかの説もある。『ながはると呼ばれしこともいつわりよ 25年の春を見捨てて』

この歌碑は昭和17年（紀元2600年記念事業帝国在郷軍人会三木町分会）に建立された。

揮毫は篠山町出身陸軍 本庄繁

三木城本丸跡 よく説明されているのは落城後に再築されたもので、天守の位置も違っているようです。別所氏の三木城は本丸、二の丸、新城、鷹尾山城、宮ノ上要害等で構成され、規模は東西550m、南北450m（600m×700mの記載もあり）と云われ南側は山と谷、三方は崖に囲まれ、東は文化会館、南は上下水道庁舎に及ぶ広大な城であった。本丸跡には堀幅9m、深さ3mの大きな堀があることが平成18年の発掘調査でわかり、伝本丸跡は堀を埋めた後に作られたと考えられる。

三木城の落城後、新たに三木城が作られたが一国一城により1617年に取り壊され明石に資材を運ばれたと伝わる。これにより三木は城下町から宿場町と変遷する。

上の丸稻荷神社 別所長治が京都の伏見より勧進して城内に創建したと伝えられ、三木城落城後、秀吉により再建された。昔は府内中将稻荷大明神と呼ばれ滑原町が管理。江戸中期から盛んになった鍛冶屋の崇拜を集めていった。現在の三木の祭りの太鼓屋台の原型というべき『荷ひ太鼓』を滑原町が持ち、奉納していた。また初午には狂言、人形芝居が奉納され、子供相撲も行われた。金物屋が中心の『ふいご祭り』も当社にお参りしていた。常夜灯、手水鉢は江戸時代のもの。

地藏堂 地藏菩薩の祠。地藏堂については詳細不明。コンクリートブロックで保護されている石

像は滑原地区にあった地藏菩薩、観音菩薩、役行者等を集めて上ノ丸公園に移転。滑原町の婦人有志でお世話している。

八坂社 詳細は不詳。小生子供の頃はこの社の祇園さんの夏祭りは盛大で、盆踊りには各地から参加があり、沢山の夜店が出て賑わっていた。数年前まで滑原地区の盆踊り、提灯、綿菓子、金魚救い等を実施していたが、少子高齢化が進み継承が難しくなった。小生が古者から聞いているのは昔三木で疫病が流行った時に京都の八坂神社から勧進したとのこと。

愛宕神社 三木地区の火災防止のため勧進されたと云われています。6ヶ町（滑原、平山、大手、東条、芝、岩宮）でお世話している。毎年8月24日に全町役員が集まり祭典を実施している。

慰霊碑 昭和7年7月2日二位谷池等の氾濫、33人の犠牲。昭和8年に建立された。

忠魂碑 明治37、38年の日露戦争において美濃郡より1000人の出兵があり、内80人が犠牲になった。英霊を慰霊するために建立したと横の石碑にかかっているが、第二次大戦の戦死の慰霊が主体になっているようだ。

カンカン井戸 明治末の公園化時に調査され、別所氏の家紋『九曜巴文』のついた鏡1対が発見される。この井戸の直径3.6m 深さ2.5m（滑原商店街の地面）。石をほり込むとカンカンと音がするからこの名がついたとされる。長年抜け穴があると伝えられてきたが発見されなかった。

正入寺 姫路城主の池田家の家老伊木忠次が三木城主になった時、池田家先代の池田信輝勝入齋を供養するために『勝入寺』を三木城平山丸に建立した。池田氏が転封になった際、伊木氏もこの寺も備前に移動。のちに慈眼寺の住職により再建されたが、この時『正入寺』と名を改める。なお、現在もこの伊木氏の菩提寺として関係は続いている。

この伊木忠次は清州の生まれで、織田信長の家臣であった。のちに池田氏（信長の乳兄弟）の家臣となる。清州会議で秀吉に与する。戦功も大変なもので秀吉、家康にも信任の厚い武将であった。三木城主として家老としては破格の3万7000石。三木の新城完成を見ずに逝去。墓所は本要寺にある。